

## 第6分野 個性を活かし持続可能な地域づくりを推進するまち

## 基本方針3

**地域資源を活用し 市民協働による  
いつまでも住み続けたいと思う地域  
づくりを進めます**

～白山文化の里「しろとり」～

事業年度	令和6年度
責任部長	白鳥振興事務所長
責任課長	白鳥振興課長
責任課	白鳥振興課
主管課・関係課	白鳥振興課、建設総務課、総務課、観光課、社会教育課、学校教育課、商工課、高齢福祉課、政策推進課

## ■ 施策の概要

## 施策1: 道路網の有効活用によるまちづくり

【主管課: 白鳥振興事務所 振興課】

白鳥地域は、東海北陸自動車道と中部縦貫自動車道が接続し、一般道では岐阜方面と富山方面を結ぶ国道156号と福井方面と松本方面を結ぶ国道158号が貫通する交通の結節点となっています。令和5年度には、中部縦貫自動車道が勝原ICから九頭竜ICまで開通し、更に令和8年春には和泉・油坂区間が開通予定であり、北陸方面からの交流人口や物流の更なる増加が見込まれます。これらの道路網整備を見越して、防災物流拠点施設の設置・活用や観光客の集客につながる取り組みを推進します。あわせて、白鳥地域の広域防災拠点に指定されている郡上市合併記念公園へのアクセス道と周辺の市道の整備・改良を進め、防災機能の向上を図ります。

## 施策2: 白山文化を活用した市民協働による地域の魅力向上

【主管課: 白鳥振興事務所 振興課】

白鳥地域には、白山信仰に関する歴史文化や白鳥おどり等の伝統芸能等、地域資源が多くあります。しかし、その魅力を十分に活かしきれず、観光客等の増加につながっていません。そのため、住民自らが地域資源の魅力を理解し、愛着を深め、その魅力を発信していく取り組みが必要となっています。また、地域を代表する伝統芸能である白鳥おどりは、担い手の高齢化に加え、踊り客が会場で快適に過ごすための環境の充実が求められています。

今後は、住民が地域資源を学び、その魅力を広く発信するとともに、次世代へ継承する活動を推進します。

## 施策3: コミュニティの輪を広げる住民主体の地域づくり

【主管課: 白鳥振興事務所 振興課】

白鳥地域では、18の自治会それぞれが特色あるコミュニティ活動を行っていますが、人口減少や少子高齢化による活動の停滞や地域防犯力の低下などが危惧されています。このため、これまで以上に地域住民のつながりを深め、交流を活性化する取り組みや、地域づくりの担い手の確保などが必要となります。若い世代の人材育成の取り組みや、高齢者が健康で生きがいを持ち、いきいきとした暮らしのできる環境を整えるとともに、全世代による交流の場づくりや地域で支え合う仕組みづくりを推進します。

## ■ 基本方針に係る総括評価(所見)

【責任部長: 白鳥振興事務所長】

現在進められている中部縦貫自動車道の福井ー白鳥間の開通で中部縦貫・東海北陸の両自動車道が接続することにより、白鳥地域は両自動車道の結節点となる。

これによる将来的な物流及び交流人口の増加を見据え、この地の利を活かすべく、令和5年度から実施している白鳥振興プロジェクト事業では、前年度の委員会で取りまとめた課題や目指すべきビジョンをもとに、民間団体としての「白鳥振興プロジェクト委員会」を設立。地域内の事業者の状況及び特産となり得る商品調査、白山文化をテーマとしたFAMトリップを通じたツアーのモデルコース提案、中核拠点づくりや、受け入れ態勢に関する基本構想の策定についてそれぞれを報告書としてまとめた。今後はこの成果に加え地域内の若者たちを取り込みながら、来訪者の入口としての「道の駅清流の里しろとり」と市街地活性の取り組みとの相乗効果を図りながら、地域プロモーション、エリアマネジメント、空き家利活用、地域の文化・自然資源の利活用等への取り組みを進めていく。

また、白鳥地域には自然と文化に基づく数多くの地域資源や観光資源として、清流長良川あゆパークやキャンプ場などアウトドア志向の施設、北部地域には白山信仰の美濃側の拠点である長滝白山神社に始まる登拝路があり、市街地を中心に夏期に行われる「白鳥の拝殿踊り」、「白鳥おどり」も令和6年度にそれぞれ国重要無形文化財、市指定無形民俗文化財の指定を受けている。

これら相互の資源や施設の連携により観光客の周遊を図るため、引き続き各施設のPRや周遊コースの提案等を一元的に行う組織の構築を検討していくとともに、白鳥おどりの体験施設「世栄」や白鳥観光ガイドの会との連携を図りつつ、今後も一層のPR活動と観光振興、地域振興を図る必要がある。

## ■施策ごとの評価

### 施策1：道路網の有効活用によるまちづくり

【主管課：白鳥振興事務所 振興課】

評価

**B**

目指す姿に向けて概ね順調であるが、一部努力を要する。

#### ▶後期基本計画策定時の「現状と課題」

- ・交流人口の減少と経済活動の縮小
- ・広域交通の要衝であるが、道路網の発達により観光客や物流の通過点となるおそれ

#### ◎後期基本計画策定時の「目指す姿」

道路網整備や防災物流拠点が設置され「人」と「モノ」の交流が拡大することによる活力あふれるまち

### I. 施策の取組効果や達成状況に関する分析(関連する事務事業の成果や積み残されている課題など)

#### 【成果】

東海北陸自動車道と中部縦貫自動車道の今後の整備拡張計画を踏まえ、「人」と「モノ」の交流の拡大を見据えた地域の戦略的な観光振興を目的に令和5年度から進める白鳥振興プロジェクト事業を継続し、前年度に取りまとめた課題や目指すべきビジョンをもとに、民間団体としての「白鳥振興プロジェクト委員会」を設立。11回の委員会の開催と、地域内産業連携振興事業、白山文化ツーリズム事業、白鳥地域中核拠点づくり事業の3点の事業を喫緊の課題として取り組み、事業者及び商品調査、ヒアリングを通じて開催した2回の仮見本市により、道の駅と事業者との限定コラボ商品が新開発や、白山信仰の「巡礼」をテーマとした白鳥地域北部での高付加価値旅行者向けコンテンツの可能性と必要性の再認識、プロポーザルからの提案書を受け、指定管理者として取り組むための材料としてターゲットの明確化、そのための商品ラインナップ、施設の魅力を高めるための仕掛けとしての三施設合同イベントの実施に繋がった。

#### 【課題】

2本の高規格幹線道路の結節点という利点はあるものの、降雪・積雪のリスクが物流業務には不利な要素であることから、両自動車道の結節点により増加が見込まれる交流人口と物流の通過点とならないよう白鳥に留め、地域の特色を活かした観光に結びつけ活性化に繋げていく必要がある。

そのためには、地域内3つの道の駅を連携・活用や市街地の活性化とも連携し、まちなかへの来訪者(宿泊者)と道の駅への来訪者が往来し、観光と経済の好循環を生み出す仕組みを確立するとともに、地産地消のエコシステム形成、コンテンツ開発、プロモーション、エリアマネジメント、インバウンド誘客や文化・自然資源の利活用等への取り組みとともに、観光客の増加と多様化するニーズに応えるための新たな宿泊施設の開発と、既存の宿泊施設に対する再投資を促すことが必要である。

### II. 今後の方向性と具体的な展開

今年度の取り組みを通じ、道の駅では指定管理者が今後独自に施設連携や商品開発を進めていき、宿泊施設をハブとした観光・産業資源を繋ぐ動きも出てくるものと思われる。

今後は若手メンバーによる委員会組織で白鳥市街地活性化と併せて白鳥の観光・産業振興のあり方を検討していく中で、中核拠点としての道の駅を活用したソフト機能や、周辺を人々が立寄りやすいエリアとするためのアイデアを抽出する。

評価

B

目指す姿に向けて概ね順調であるが、一部努力を要する。

▶後期基本計画策定時の「現状と課題」	◎後期基本計画策定時の「目指す姿」
<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民の白山文化をはじめとする地域資源の認識、情報の発信不足</li> <li>・白鳥おどりの担い手の高齢化と踊り会場の環境整備</li> </ul>	白山文化や伝統芸能が守り伝えられ、住民が誇りをもって住み続けられるまち

**I. 施策の取組効果や達成状況に関する分析(関連する事務事業の成果や積み残されている課題など)**

**【成果】**

白山の信仰・歴史・文化に関する資源が多く残る白鳥町長滝地区の長滝白山神社から前谷地区の阿弥陀ヶ滝、石徹白地区の白山中居神社・いとろ大杉を結ぶ白鳥町北部地域振興の取り組みは、令和元年度より地域周遊の普及と地域資源の活用を目指して進めてきた。令和2年度の白山周遊パンフレット「くくるをめぐる」刊行、4年度にはパンフレットを基にしたWebサイトの製作と公開、令和5年度にはWebサイトへの誘導を盛り込んでパンフレットを増刷、令和6年度はパンフレットの頒布什器やWebサイト周知のためのポストカードの製作とともに、Webサイトのコンテンツ追加を実施した。

また、白山周遊のエントリー施設となる白山文化博物館でも企画展を開催(年間入館者数3,739人)するなど、白山文化及び地域の魅力をより広く周知するための事業を実施してきた。

地域や民間の関連組織との協力として、令和3年に発足した「白鳥観光ガイドの会」では、令和6年度事業として年3回の観光ガイド研修会、市内外の12団体からの依頼を受けガイドを行った。

白鳥おどりに関しては、令和6年は22日間で約43,500人(前年より113,000人増)の来場者があった。また、「道の駅清流の里しろとり」の2階に白鳥おどり体験施設「世栄」が整備され、インバウンドの団体を主に1団体18名、個人18名の利用があった。年度末には「白鳥の拝殿踊」が国重要無形民俗文化財、「白鳥おどり」は市指定無形民俗文化財に指定を受けている。普及活動に関してもおはやし講座やおどり講習会により、新たなおどりファンや次世代の担い手の獲得や育成も継続して注力している。

**【課題】**

従来より進めている白山文化を活用したPRに加え、世界農業遺産である「清流長良川の鮎」、白山ユネスコエコパークの白鳥エリアといった世界的にも認められた地域となっている点を踏まえ、白山文化博物館、白山瀧宝殿などの拠点施設での情報の発信等の有効な活用を図りつつ、地域内の関連スポットや施設と連携しながら、より地域の活性化につながるPR方法の検討が必要である。

また、当地へ来訪した人たちが気軽に白山文化に触れてもらえるよう、エントリー施設となる白山文化博物館の一部改修の検討が必要である。

令和6年(2024年)以降、インバウンド(訪日外国人旅行者数)は大幅に増加し、過去最高を更新する見込みであり、今後は海外からの観光客が増加してくることを考えると、観光ガイド等の人材育成などの受け入れ態勢をより充実させることが急務である。

白鳥おどりについては、国・市の指定を受け参加者も増えることが見込まれ、若い世代にも浸透しつつあると感じるが、新しい担い手の育成や踊り体験施設「世栄」を活用したPRが急務である。またおどり会場によっては、トイレが離れた場所にしかない等の課題がある。

**II. 今後の方向性と具体的な展開**

増刷した総合パンフレット「くくるをめぐる」と関連するイメージ動画、Webサイトをより一層周知活用することで、実際に現地を訪れた人が現地での旅をより楽しめるような仕掛けや環境整備を進める。

円安によるインバウンド等により、今後観光客の増加が見込まれるため、地域や民間の関連組織との協力関係の構築を進めながら地域全体を案内できるガイド団体の養成や、地域の特色・文化を活かした飲食物・商品のブランド化、ツアーの実証実験等による現地へ訪れてからの体験等を通じ、北部地域の魅力を高める。

白鳥おどりについては、現状人材育成の場がない中高生に向けたクラブ等創設の検討を進めるとともに、踊り体験施設「世栄」を活用した普及を図ることで次世代の担い手と新たなおどりファンの獲得を図るとともに、おどり会場のより一層の環境整備を進める。

施策3:コミュニティの輪を広げる住民主体の地域づくり

【主管課:白鳥振興事務所 振興課】

評価

B

目指す姿に向けて概ね順調であるが、一部努力を要する。

▶後期基本計画策定時の「現状と課題」

- ・地域づくりの担い手不足
- ・高齢化や人口減少によるコミュニティ活動の停滞

◎後期基本計画策定時の「目指す姿」

地域運営組織が確立され、地域づくりの担い手が活躍し、住民同士が支え合うまち

I. 施策の取組効果や達成状況に関する分析(関連する事務事業の成果や積み残されている課題など)

【成果】

地元白鳥町の活性化を目指すため、30～40代の有志メンバー「SIRO」が令和5年度に立ち上がった。白鳥おどりを盛り上げるためのSNSによる情報発信やオリジナル手ぬぐいの制作、販売などの活動を行い、集客力アップにつながる活動を行った。また、地域協議会とタイアップした「白鳥広報公式LINE&Instagram」を令和6年12月から始動し、公的なお知らせからイベント情報など多世代に対応した情報発信を行い、フォロワーも1,000人の大台を突破した。

【課題】

「SIRO」の活動に共感する世代、地域を越えた人材の参画が必要。

II. 今後の方向性と具体的な展開

「SIRO」メンバーと地域協議会とのコラボにより地域課題を解決する取り組みを行う。令和7年度ではデマンドバスの利用促進に向けた取り組みを行うこととしている。

■後期基本計画策定後新たに生じた課題等

：

■関連する個別計画の有無

無